

授業改善のポイント 第4学年

話題に沿って必要な事柄を集め、選択する力を付ける

取材メモを書く

ケーキ店を営んでいる平田さんに「新商品を作るときのくふう」について聞きたいな。



取材前に指導しておくこと

- ① 書く目的や伝える相手を意識して取材する。
- ② 必要な事柄についての要点を体言止めや短い言葉でメモする。
- ③ 取材メモは、一つの事柄について一つ書く。

調べたことを紹介文にまとめ、クラスみんなに伝えよう。

取材メモを整理・分類し、必要なメモを選択する

取材メモを事柄ごとに整理・分類させます。

その際、

- ① 取材メモに小見出しを付ける。
- ② 内容別に取材メモを分類する。
- ③ 自分の伝えたい内容に合った取材メモを選択する。

と進めるとよいです。

ケ 見た目や大きさのくふう
お客さんがおいしそうだと思うようないろどりを考える。
子どもでも食べやすい大きさにする。

カ きせつのくだものを使うこと
春はイチゴ、夏はメロンなど、きせつごとに、おいしいくだものがある。
新商品にくだものを使い、きせつを感じてもらおう。

ク スタンプカードの発行
買い物五百円でスタンプを二こおすとスタンプ十こで、お客さんの好きなケーキを一つサービスする。

キ のみものコーナーのせつち
コーヒーや紅茶(こうちや)などをわりようでのむことができる。
買ったケーキも店の中で食べられる。

選ばなかった取材メモ
「お客さんへのサービス」

選んだ取材メモ
「新商品を作るときのくふう」

小見出しをつけると、必要な取材メモを選びやすいね。



段落の役割を理解し、文章を構成する力を付ける

内容のまとめとして段落をとらえて書く



組み立て表をもとに「始め・中・終わり」の文章構成を考えさせることが効果的です。自分の考えを分かりやすく伝えられるように、メモの取捨選択や順序を考えましょう。

「始め」の部分で話題を提示する。

《組み立て表》

終わり	中		始め
○ まとめ	○ 二 く ふう	○ 一 く ふう	く ふう ○ 新 商 品 を 作 る と き の こ と 《 紹 介 す る こ と 》
このように、平田さんは、きせつのくだものを使った、見た目や大きさのくふうをしたりして新商品を作っています。	<ul style="list-style-type: none"> ケ 見た目や大きさのくふう ・ お客さんがおもしろいと思うようないろどりを考える。 ・ 子どもでも食べやすい大きさにする。 	<ul style="list-style-type: none"> カ きせつのくだものを使うこと ・ 春はイチゴ、夏はメロンなど、きせつごとに、おいしいくだものがある。 ・ 新商品にくだものを使い、きせつを感じてもらおう。 	わたしは、平田さんが新商品を作るときにくふうしていることをしようかいたします。

「終わり」の段落には、「始め」と「中」の段落で提示された話題に対応する内容を書く。「このように」などの接続詞を使って文章全体のまとめを書く。

紹介文を書くときの基本的な文型を指導しましょう。取材メモに小見出しを付けておくと、段落を意識しやすいです。

取材した事柄の順序に沿いながら、文章を内容のまとめごとに、いくつかに分けて配置していくことを意識させる必要があります。その際、文章には「始め・中・終わり」などの構成があることを低学年から押さえましょう。

「はじめに」「つぎに」「それから」「さいごに」などの接続語を使い、順序よく書くよう指導してください。



資料を活用して記述する力を付ける

メモの内容を文章化する

短い言葉でまとめたあるメモを文章化する経験を国語だけでなく、社会や理科、総合的な学習の時間などで積みませましょう。メモの小見出しを基に、段落の始めに、その段落で伝えたい内容を一文で書き、次に、具体的な事例を書くと読む人に分かりやすく伝えることができます。

段落（意味のまとまり）が変わるときは、「改行・一字下げ」になることを繰り返し指導しましょう。



発表でも、結論を述べてから詳しく説明するよう指導しましょう。

《紹介文の一部》

《取材メモ》

次に、見た目やサイズのくふうです。お客さんがおいしそうだと思うので、子どもでも食べやすい大きさにしています。

見た目や大きさのくふう
・ お客さんがおいしそうだと思うようないろどりを考える。
・ 子どもでも食べやすい大きさにする。

具体的な事例を書く。

伝えたい内容を一文で書く。

字数や時間の制限の中で書く経験を重ねる

字数や時間を意識して書く習慣を付けることが大切です。時間内に決められた字数で文章を書く活動場面を多く設定しましょう。

自分の考えを15分で300字にまとめてみよう。



書くことに苦手意識をもっている子には、字数でなく、文の数を示すとよいです。

目的に応じて、文章を見直す力を付ける

文章を推敲する



- ### 表現上の推敲ポイント例
- ◎ 一つの段落では一つのことを述べているか。
 - 文末表現（常体・敬体）が揃えられているか。
 - 接続詞が適切に使われているか。
 - 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係は正しいか。
 - 漢字を正しく使っているか。

<推敲後>

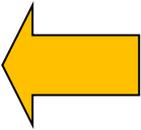
前後の文の関係に合う接続語を使おう。

一つの段落では、一つの内容のことを書こう。

<推敲前>

わたしは、平田さんが新商品を作るときにくふうしていることをしようかいます。
まず、きせつのくだものを使うことです。春はイチゴ、夏はメロンなど、きせつごとに、おいしいくだものがあります。新商品にくだものを使い、きせつを感じてもらおうようにしています。こうすると、きせつごとにちがったケーキが食べられるので、お客さんも喜ぶと思います。

誤りを正す。



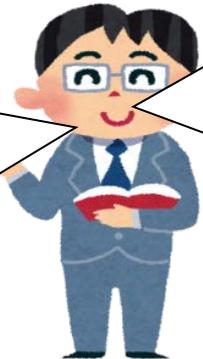
よりよい表現に書き直す。

わたしは、平田さんが新商品を作るときにくふうしていることをしようかいます。そして、きせつのくだものを使うことです。春はイチゴ、夏はメロンなど、きせつごとに、おいしいくだものがある。新商品にくだものを使い、きせつを感じてもらおうようにしています。

自分の考えを付け足すことで、工夫がより伝わりやすくなる。

目的や相手に合った文末にそろえよう。

低学年から文章を読み返す習慣を付けるよう、間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする場面を設けましょう。



下書きと推敲後の文章を比べるなどの場面を設け、推敲して整った文章になると、自分の考えが伝わりやすくなることを実感できるようにしましょう。